

若年層の言葉における感動詞の品詞転成について

Part of Speech Transition of the Exclamation in Young Generation

ウォン ティ ビック リエン*

Vuong Thi Bich Lien

(要旨)

感動詞とは、間投詞とも呼ばれ、そもそも自立語で活用がなく、文の独立語となることができる。そして、概念内容をもたず、感嘆などの感情が非分析的に表出されたものであると考えられている。しかしながら、若年層の言葉を観察すると、感動詞は、感情を表す行動状態・応答行動状態を示す名詞のような振る舞いをする場合がある。もし、それが事実であるならば、通時的には名詞という分析的な品詞へと移行しつつあるということになる。

本稿では、若年層の日本語母語話者を対象とした調査の自然談話のデータとアンケートの結果を利用することによって、統語的な観点から感動詞の品詞転成について明らかにする。

【キーワード】 若年層、感動詞、品詞、名詞、副詞、転成

1. はじめに

話し言葉の談話の中には、例(1)のように「えっ」「へー」「あー」「うーん」「いやー」「うんうん」などが独立語として文頭にくるか、一文として現れることが頻繁に見られる。¹

(1) 010205A : し、しおり？しおりちゃん。

010206B : あー、しおりちゃん？
のしおりちゃん？

010207A : うん、うん。確か。確か。

010208B : えー、しおりちゃん一緒なんだ。

010209A : 多分。いやー、分からん。

010210B : まじか。全然見とらんかったな。

010211A : うーん。

010212B : あー、やば。

010213A : うーん。どうなるんやろう。

010214B : どうもならないと思うけど。
もうこうなってしまった以上。

010215A : あー、しかも、父さんと母さんも英語学専攻しとったけん大学で。

010216B : えっ、そうなん。へー。

これらは、学校文法によると、感動詞と呼ばれている。応答詞、感嘆詞、相づち詞などの名称も知られている。感動詞についての研究は1973年以前から現在まで様々なものが出ている。それらの研究は伝統的な研究と現代的な研究の二つに分けられる。

伝統的研究においては、1973年以前から

* 山口大学大学院東アジア研究科博士課程 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

1985年にかけて、感動詞の構文論的位置付けと定義・分類を文法的品詞を中心に議論している。ここでは、独立性があり、もっぱら話し手の主観的把握を表現するといった意味を持つということ、つまり「辞」性という特質しか持っていないと考えられている。例えば、鈴木一彦（1973：168-170）では、次のような説明が成されている。

「感動詞は、事柄の表現ではない。同時に、「助詞」「助動詞」のように、事柄と事柄の関係を表したり、事柄に限定を加えたり、事柄についての判断を示している表現でもない。主体と客体とが分化していない表現である。たとえば、「海よ」という表現は、客体的表現「海」と主体的表現「よ」とが分化した表現であるが、海を見て「おゝ」と声をあげた時は、その「おゝ」の中には、主体と客体とが融合している。いわば、「詞」と「辞」が融合している。「あゝ」「おや」「まあ」「いいえ」などすべて同じである。つまり、詞的要素と辞的要素との融合体である。感動詞は単独で表現されると同時に後続文を伴うことが多い。例えば、「いいえ、私は知りません」において、「いいえ」だけでは、聞き手にはっきりとわからないであろう事柄を分析的に後続文として表現しているのである。「修飾する」ということが、「事柄の内容を限定する」あるいは「事柄を詳しく説明する」ことであるならば、後続文は、「感動詞」に対して「修飾」の役目をしているのである。いわゆる、「副詞」は、後続の語句・文に対しては「修飾」の役目をしている。この点、「感動詞」と「副詞」とは全く異なった性格を持つ。」

現代的研究は、1985年から現在までで、感動詞が構文論的に独立性をもっていること

は、その意味的性質と無関係ではないということをつえた。そして、感動詞は、実時間的な話し手の認識上の反応や伝達上の働きかけなどを表すのであって、様々な文脈状況に即応して使用しなければならないことを主張し、その観点で感動詞が現れる具体的な場面を探究している。例えば、定延利之・田窪行則（1995）では、自然言語処理学のアプローチを用い、感動詞は心的データベース・心的バッファからの入出力、登録、検索、検討、計算、言語編集などの心的操作モニターの標識であると主張している。また、森山卓郎（1996）においては、「あれ」「うわあ」が、何かと遭遇して、急激に起こる内発の感情を表すことから、心的操作標識だけでなく、話者の情意変動的反応も表していることを示している。その後の研究でも、独立語として文頭にくるか一文となる個別の感動詞を対象とし、その感動詞と前後の発話の関係を探る傾向が続いている。

このように、感動詞は、伝統的研究から現代的研究にかけて、品詞では、名詞、動詞、形容詞、副詞と異なり、概念的意味がなく、他の語を修飾しないと考えられている。

しかし、若年層の言語使用を観察すると、感動詞という語は(1)のように応答詞か相づち詞として文の中に独立して現われるだけでなく、例(2)～(7)のようなコンテキストに現われることもある。

(2) 010326B : おやが公務員じゃけすごい
すすめてくるけどさ、うーん。そこまで頑張ってるまでやりたいことがあるかって
いったら、

010327A : あー。

010328B : やっぱうーんってなるわけよ。

010329A : なるほどね。

- (3) おばあちゃんからのプレゼントを開けたら、お一時計だった。
- (4) 彼が言ったことが本当だったら、それはほおーって話だね。
- (5) A: この話、もう言った? 彼女に。
B: 言った言った。
A: 彼女はどのような反応だった?。
B: そうだね。ふーんだった。
- (6) A: 連休に、旅行行った?
B: うん、ベトナム行った。
A: へー、どんなところ?
B: いやー面白いところだよ。
- (7) 彼女は、さっき入ってきた男の人をふーんと見てから、部屋を出て行った。

本稿では、上記の例(2)~(7)のようなコンテキストに現われる感動詞を対象とする。そして、感動詞を文の構造単位として分析することによって、述語や修飾の働きを把握し、感動詞と呼ばれている語の品詞性を明らかにする。この問題は、先行研究では論究がなされていないので、本稿の記述はより意義があるものと思われる。

2. 調査要領

感動詞の新しい用法を調べるために、2回の調査を実施した。

1回目は、プレ調査として、2011年2月23日から3月23日まで研究室や協力者の職場や家で行った。調査の協力者は20代~70代の日本語母語話者である。協力者には二人ずつのグループになってもらい、自由に30分程度の会話をしてもらって、それをビデオで撮影した。1回目の調査では、6組の会話が得られた。特に、20代と30代の会話に(2)のような新しい用法が捉えられた。

2回目の調査は2011年8月12日から9月15日に実施した。2回目の調査の目的は、感動詞は、

品詞面でどのような役割をするか、どのようなコンテキストに現われるか、を検討することにある。

調査の対象は、10代、20代、30代の日本語母語話者である。アンケートシートは100人(10代:8人、20代:71人、30代:21人;男性:59人、女性:41人)に配布している。

アンケートの内容は、16項目において、「わあー、わー、うわー、うわっ、おー、おっ、おーっ、えっ、えー、えーえー、えっ、えーっ、へー、へーっ、ほおー、ほおーっ、ほおん、ふーん、うーん、うんうん、そうそう、いやー、あー、あっ、あーあー、きゃあ、はあっ、まあ、おいおい、あれ」という感動詞のバリエーションを取り扱った²。各項目に作られた感動詞の組み合わせは、下記のように4パターンに分けられる。

- パターン① a. [[[感動詞]Ø]名詞]³
b. [[[感動詞]の]名詞]
c. [[[感動詞]みたいな]名詞]
d. [[[感動詞]って]名詞]
- パターン② e. [[感動詞]だった]
- パターン③ f. [[[感動詞]Ø]形容詞]
g. [[[感動詞]と]形容詞]
- パターン④ h. [[[感動詞]って]なる]
i. [[[感動詞]と]見て]
j. [[[感動詞]と]歩いていた]
k. [雨が[[感動詞]と]降ってきた]

パターン①は、aのように感動詞と名詞を直接に組み合わせるか、またはb,c,dのように助詞「の」「って」「みたいな」が後ろに付いて、名詞と組み合わせるパターンであり、[付録]のアンケートの1項目~4項目、6項目~9項目に相当する。扱った名詞は、物を示す名詞の「時計」「ねずみ」、人間を示す名詞「女の子」「顔」、言語に関する活動を示す名詞「意

見」「話」「答え」である。パターン②は、感動詞と断定の助動詞「だった」を組み合わせるパターンであり、アンケートの5項目に相当する。パターン③は、fのように感動詞と形容詞を直接に組み合わせるか、またはgのように助詞「と」が感動詞と形容詞を組み合わせるパターンであり、アンケートの11項目～13項目に相当する。扱った形容詞は、人間の評価・態度・感覚を表す「面白い」「美味しい」「怖い」である。パターン④は、h,i,j,kのように分けられ、助詞「と」あるいは「って」を伴って感動詞と動詞を組み合わせるパターンであり、アンケートの14項目～16項目に相当する。扱った動詞は変化動詞の「なる」、人間行為動詞の「見る」「歩く」、自然現象の「雨が降ってくる」である。

これらの組み合わせによって作られた文に対し、アンケート回答者は、以下の記号を使用して、文の適格性を判断する。

- ◎：言う（使う）ことができる。
- ：少々変であるが、言えそうな（使えそうな）気もする。
- △：自分は言わない（使わない）が、聞いたことはある。
- ×：自分は言わない（使わない）し、聞いたこともない。

調査の分析方法としては、まず回答の頻度を見て、それぞれの項目で、各組み合わせパターンを頻度の高いグループと頻度の低いグループに分ける。次に、各グループを観察して、それぞれのパターンの特徴を記述する。

3. 分析

本稿では、調査結果から抽出した感動詞の組み合わせパターンに基づいて感動詞の用法を解明する。調査結果として、頻度が高い感動詞の特徴を観察すると、下記のような組み

合わせパターンが得られた。⁴

- [[[感動詞]って]名詞]
- [[感動詞]だった]
- [[[感動詞]Ø]形容詞]
- [[[感動詞]と]形容詞]
- [[[感動詞]って]動詞]
- [[[感動詞]と]動詞]

以下の各節では、これらのパターンを具体的に考察していく。

3.1. [[[感動詞]って]名詞]

調査結果を見ると、パターン①において、[[[感動詞]って]名詞]は、[[[感動詞]Ø]名詞]、[[[感動詞]の]名詞]、[[[感動詞]みたいな]名詞]より頻度が高いことが分かる。全体的にも、[[[感動詞]って]名詞]が最も多く現れている。次に例を挙げる。

- (8) おばあちゃんからのプレゼントを開けたら、[[[わあー/うわー/おー]って]時計]だった。
- (9) 彼が言ったことは本当だったら、それは[[[えーっ/へー/ほおー]って]話]だね。
- (10) 社員1：今朝の会議で田中さんが言ったことは、[[[ふーん/うーん/うんうん]って]意見]だね。
社員2：うん、そうだね。
- (11) A：結婚相手として、彼女はどうか？
B：彼女？うーん、ちょっとね。
C：そうだね。[[[いやー/うーん/ふーん]って]女の子]だね。
- (12) 今朝電車の中で[[[えっ/ほおー/へー]って]女の子]を見たので、その姿が一日中頭から離れない。
- (13) 彼は[[[えーっ/ふーん]って]]顔でその話を聞いていた。
- (14) その質問を一週間ずっと考えていて、やっと[[[おー/うんうん/へー]って]

答え]が得られた。

- (15) 「きのうね、掃除のとき、引き出しを開けたら、[[きゃあ/あっ/うわっ]って]ねずみ]が飛び出しちゃって、...。」

例(8)～例(15)を見ると分かるように、感動詞の「わあー」「ふーん」「いやー」「えっ」「うーん」「おー」「きゃあ」の後ろにはすべて「って」が付いている。「って」の直前には、例(16)のように名詞が来る。

- (16) 田中さんって、背が高くて、やさしい人だね。

しかし、次のような例も見られる。

- (17) 鈴木さんが転職するって噂を聞いた？

- (18) A: 今度の旅行に、リーさんを誘った？

B: うん、誘った。

A: どうだった。

B: ん、忙しいって。

例(17),(18)に現れる「鈴木さんが転職する」「忙しい」は、単独ではそれぞれ文、形容詞であるが、直後に「って」が付くコンテキストでは、引用句として働いているので、品詞性を考えれば、その引用句は名詞としての役割を果たすと考えられる。

以上より、例(8)～(15)に現れた感動詞は名詞であると考えられる。

3.2. [[感動詞]だった]

調査結果では、感動詞と助動詞「だった」の組み合わせパターンは、「ふーん」「うーん」「えっ」「へー」で頻度が高くなっている。例(19)のようなコンテキストに現れる。

- (19) A: この話、もう言った？彼女に。

B: 言った言った。

A: 彼女はどのような反応だった？

B: そうだね。[[うーん/ふーん/えっ/へー]だった]。

例(19)の感動詞の品詞を確定するためには、次のような例を考えればよい。

- (20) お祖父ちゃんは、若いころ、有名歌手だった。

- (21) その時、早く行くべきだったの。

例(20)の「有名歌手」は明らかに名詞である。従って、統語的には「だった」の直前には名詞が来ると考えられる。例(21)においても同様に、「早く行くべき」は名詞であろう。

以上より、「だ」の直前に名詞がくることから考えると、例(19)の感動詞も名詞であると言える。また、「反応は「ふーん」だった」のような場合は「反応は「行ってもいいかな」だった」のように、「ふーん」が引用句として働いているとも考えられる。したがって、3.1節に議論したことと同様に、感動詞が名詞としての役割を果たすと見られる。

3.3. [[感動詞]〇]形容詞]

パターン③の[[感動詞]〇]形容詞]では、調査結果の観察によると、頻度が高い感動詞は、以下の例(22),(23)のように現れる。

- (22) A: 連休に、旅行行った？

B: うん、ベトナム行った。

A: へー、どんなところ？

B: [[いやー/えっ]面白い]ところだよ。

- (23) A: 「耳なし芳一」は、[[いやー/うーん]怖い]話だね。

B: ねえ。

例(22)～(23)を見れば分かるように、「いやー」「えっ」「うーん」はそれぞれ形容詞「面白い」「怖い」「おいしい」の直前に出てくる。これらの感動詞は、文頭あるいは文中に置かれ、独立性が高いものであると見られるので、フィラーであると考えられる。⁵

3.4. [[感動詞]と]形容詞]

感動詞と形容詞を組み合わせるパターンでは、感動詞がその後ろに「と」を伴って形容

詞の前のでてくるものの頻度も比較的高い。
以下に例(24),(25),(26)を挙げておく。

- (24) A: 連休に、旅行行った?
B: うん、ベトナム行った。
A: へー、どんなところ?
B: [[[えっ]と]面白い]ところだよ。
- (25) A: 昨日、社長の家へ訪問に行ったんだって、どうだった?
B: よかったよ。奥さんが[[[あっ]と]おいしい]料理を作ってくれたよ。
A: へー、いいな。
- (26) A: 「耳なし芳一」は、[[[うーん]と]怖い]話だね。
B: ねえ。

例(24),(25)の「えっと」「あっと」は、考えながら言う場合のように、「ええ」「ああ」と終助詞「と」から成ったもの、即ち「ええ」「ああ」の変異形であり、全体がフィラーとして機能していると見られる。

例(26)の「うーんと」は、量の多いことを表す元々の副詞「うんと」が長音化したものであろうと考える。⁶

3.5. [[[感動詞]って]動詞]

感動詞と動詞の組み合わせパターンでは、例(2)と例(27)のように、感動詞が後ろに「って」を伴って変化動詞の「なる」と共起するものが全体的に頻度が最も高い。例(2)と例(27)を見てみよう。

- (2) 010326B : おやが公務員じゃけすごいすすめてくるけどさ、うーん。そこまで頑張るまでやりたいことがあるかっていったら、

010327A : あー。

- 010328B : やっぱうーんってなるわけよ。

010329A : なるほどね。

- (27) 兄: 彼女、おまえの話、聞かせたら、
[[[おー]て]なる]よね。

弟: そうだよな。

これらの例を見ると、感動詞「おー」「うーん」は、後ろに「って」が付いているので、名詞であると考えられる。このことは、3.1節でも議論している。より典型的な例としては以下の例(28)~(30)が挙げられる。

- (28) 寒さがゼロ度以下に下がったら、水が氷となる。
- (29) 「さくら(桜)」は「山(やま)」と組み合わせたとき、「やまざくら(山桜)」ってなる。
- (30) 大雨だったら、庭の木がぼろぼろってなるよ。

例(28)~(30)の「氷」、「やまざくら」、「ぼろぼろ」はすべて名詞として機能している。⁷

以上より、例(2),(27)の「うーん」「おー」も、3.1節で議論したように、名詞として働いていると考えられる。

3.6. [[[感動詞]と]動詞]

感動詞と「見る」「歩く」を組み合わせるパターンは、動詞が「なる」のパターンほど頻度は高くないが、かなり現れている。以下に例(31),(32)を挙げる。

- (31) 彼女は、さっき入ってきた男の人を
[[あれ/ふーん/ほおー/うーん/へー]
と]見て]から、部屋を出て行った。
- (32) 彼は、社長の部屋を出て、[[[うーん/はあっ]と]歩いていた]。

これらの例では、感動詞が「と」の直前に現れていることから、3.4節と同様に、[[感動詞]と]が副詞の役割を果たしていると考えられる。おそらく、語構成上も感動詞と「と」は切り離せないものとなっているのではないだろうか。このような例は、次のような文に

も見られる。

(33) 牛がのろのろと歩いている。

(34) うるさい都会から緑が多い郊外に引越して、ほっとする。

(35) ここから いい天気の日、富士山がはっきりと見られるよ。

例(33),(34),(35)の「のろのろ」「ほっ」「はっきり」は、すべて後ろに「と」を伴って、動詞「歩く」「する」「見られる」と組み合わせられている。これらは様態副詞として機能している。また、例(33),(34)にはオノマトベが来ているので、ここでも、(30)と同様、感動詞とオノマトベの類似性が窺える。

ところが、例(31),(32)の「と」は(36)のように引用句を受けるものとも考えられる。

(36) a. 「質問はありませんが」と会場を見回した。

b. 「質問はありませんが」と言って会場を見回した。

例(36a)は、(36b)の「言って」が省略されたものである。したがって、両者とも「質問はありませんが」は引用句であると考えられる。例(31)は、同様に見ると、次のように捉えられるだろう。

(37) a. 彼女は、さっき入ってきた男の人を「ふーん」と見てから、部屋を出て行った。

b. 彼女は、さっき入ってきた男の人を「ふーん」と言いながら見てから、部屋を出て行った。

c. 彼女は、さっき入ってきた男の人を「ふーん」と思って部屋を出て行った。

例(37a,b)では、「ふーん」などの感動詞も、(36)と同様に引用句として働いているので、3.1, 3.2, 3.5節で議論したように、名詞としての役割を果たすとも言えるだろう。しかも、(37c)と同様の例が1回目の調査データに見ら

れる。

(38) 020243A : 学科何?

020244B : 観光、国際経済の。

020245A : あー、観光。

020246B : 中国語も確か。けっこういける。えっと思っている。

020247A : ふーん。じゃ語学研修、結局もっと多いね、もっと多いね、8人いってる

例(38)の「えっと思っている」のような場合も、「と」を介して感動詞「えっ」は引用句として働いている。

以上より、例(31),(32)のようなコンテキストに現れた感動詞は、副詞であると考えられるよりも、むしろ名詞であると考えたほうが妥当である。⁸

4. まとめ

以上、3節で述べたことをもとに、感動詞の品詞転成をまとめると、次のようになる。コロンの左側に、本稿で扱った組み合わせパターンを挙げている。コロンの右側には、感動詞がどのような品詞に転成しているかを記している。

[[[感動詞]って]名詞] : [感動詞] = 名詞

[[[感動詞]だった] : [感動詞] = 名詞

[[[感動詞]の]形容詞] : [[感動詞]の] = フィラー

[[[感動詞]と]形容詞] : [[感動詞]と] = フィラー

[[[感動詞]って]動詞] : [感動詞] = 名詞

[[[感動詞]と]動詞] : [感動詞] = 名詞

これを見ると、まず感動詞では、「って」「と」、または「だった」の直前に来ることにより、全体が引用句として働き、名詞化していることが分かる。次に、形容詞の前に置かれている感動詞については、[[感動詞]の]と[[感動詞]と]が、両者ともフィラーとして働

いていると考える。ちなみに、例(26)のようなコンテキストに現れた「うーんと」は、副詞であると捉えられる。したがって、上記のリストには含めていない。

5. 今後の課題

本稿では、感動詞という非分析的なカテゴリーが、名詞といった分析的なカテゴリーへと転成する現象を捉えた。ここで問題となることは、オノマトペとの関係であろう。先行研究において、オノマトペと感動詞の関係についての論文はほとんど見られない。例えば、田窪行則(2005)には、「非語彙的な感動詞は、いわゆる恣意性を持つ言語記号と生理的発声との中間に位置する。同様な性質をもつ語類として、擬音語・擬態語(オノマトペ)の類があり、感動詞とこれらはその構成においてあい通じるものがある」という記述がある。

本稿においても、次のような例が示す通り、感動詞とオノマトペは類似性が高いカテゴリーであると考えられる。

- (39) a. おばあちゃんからのプレゼントを開けたら、お一時計だった。
 b. あの車は、のろのろ運転だ。
- (40) a. 彼は社長の部屋を出て、うーんと歩いていた。
 b. 道に迷って、うろうろと歩いていた。

これらの例では、感動詞とオノマトペが統

語的に同じ振る舞いをしていることが分かる。

そこで今後は、両者の関係を音韻形態面・意味面・統語的用法面から考察していく必要があるだろう。たとえば、音韻形態面では、両者の子音と母音の組み合わせ、特殊拍の使い方(長音化・音節末の促音・撥音化)、母音の無声化(H化)などを検討する。統語的用法面では、両者が文構造要素として、どのように現れるかを分析するべきである。

6. おわりに

本稿では、若者の言葉における発話を考察し、統語的な観点から感動詞を分析することによって、従来学校文法で感動詞と呼ばれているカテゴリーが別の品詞に転成していることを記述した。

このような感動詞は、独立して文頭にくる、あるいは一文として現れるとき、応答詞や相づちとして機能している一方、文中で名詞や副詞としても機能していることが見られる。それゆえ、感動詞は、身振りのような非言語表現と名詞のような言語表現の中間的なものであろう。今後は、感動詞の言語学的本質を解明するために、談話や発話文の中で単独に現れるものだけでなく、文中で他の語と組み合わせるものも考察することが必要であると考えられる。

〔注〕

- ¹ 例(1)の直前にある番号は次のような書式をとる。例えば、【010205A】では、最初の2桁の数字【01】は会話グループ番号、その後の4桁の数字【0205】は発話の通し番号、最後の【A/B】は話者をそれぞれ表す。
- ² 具体的なアンケート内容は、〔付録1〕にある。
- ³ 【〇】という記号は、間に何もなく直接組み合わせることを表す。

- ⁴ ここで言う「頻度が高い」とは、アンケート調査で多くの回答者が、記号◎、○と判断したことを指している。本稿に分析した例文の具体的な回答数は〔付録2〕に載せてある。
- ⁵ 本稿では、フィラーであるとしているが、「とても面白い」「とても怖い」「とてもおいしい」の「とても」という程度副詞と同様の働きをしてい

るとも考えられるかもしれない。この問題は今後の調査で明らかに調べる。

- ⁶ これらの「えっと」「あっと」は、程度副詞のような働きをすとも考えられる。この問題は今後の課題としておく。
- ⁷ 例(30)から、感動詞とオノマトペの類似性が窺えるが、その議論については別稿に譲る。
- ⁸ 「えっと思っている」は「どのように思っているのか」という観点から考えれば、「えっ」は「と」が付いて、様態副詞のような働きをしているとも考えられるだろう。したがって、今後の調査では、この点についても解明する必要がある。

【参考文献】

- 池谷智子 (2010) 「引用形式をとった話し言葉のモダリティ—コンビニに行こうっとの「ット」は何を表すのか—」『神戸松蔭女子学院大学 文林』No.45 pp.1-28
- 石神照雄 (1979) 「接続詞について」『信州大学教養部紀要第一部 人文科学第二部 自然科学』Vol.14 pp.1-11
- 大場美恵子 (2009) 「文末に用いられる「みたいな」」『日本語と日本語教育』慶應義塾大学 日本語・日本文化教育センター編
- 加藤陽子 (2005) 「話し言葉における発話末の「みたいな」について」『日本語教育』No.124
- 小池清治ほか (2007) 『日本語キーワード辞典』朝倉書店
- 小松光三 (1991) 「感動詞 (感受受容詞) と接続詞 (承受関係詞)」『愛媛大学法文学部論集』Vol.24 pp.17-43
- 定延利之 (2005) 「「表す」感動詞から「する」感動詞へ」『言語』Vol.34 No.11 大修館書店 pp.33-39
- 定延利之 (2007) 「話し手は言語で感情・評価・態度を表して目的を達するか—コミュニケーションから見えてくること」『自然言語処理』Vol.14 No.3 pp.3-15
- 定延利之・田窪行則 (1995) 「談話における心

- 的操作モニター機構—心的操作標識「ええと」「あのー」—」『言語研究』日本言語学会 No.108 pp.74-93
- ジル・フォコニエ, 坂原茂・水光雅則・田窪行則・三藤博共訳 (1996) 『メンタル・スペース—自然言語理解の認知インターフェイス—』白水社
- 鈴木一彦 (1973) 「感動詞とは何か」『品詞別日本文法講座』明治書院 pp.137-274
- 高山善行 (2002) 『日本語モダリティの史的研究』ひつじ書房
- 田窪行則 (1995) 「音声言語の言語学的モデルを目指して—音声対話管理標識を中心に—」『情報処理』Vol.36 No.11 pp.1020-1026
- 田窪行則 (2005) 「感動詞の言語学的位置づけ」『言語』大修館書店 Vol.34 No.11 pp.14-21
- 富樫純一 (2001) 「情報の獲得を示す談話標識について」『筑波日本語の研究』筑波大学 文芸 言語研究科 日本語研究室 No.6 pp.19-39
- 洞澤伸 (2011) 「若者たちが使用する「ほかし言葉」“かな、みたいな”と“って感じ”の語用論的機能」『岐阜大学地域科学部研究報告』No.28 pp.41-49
- 仁田義雄代表 (2008) 『現代日本文法』日本語記述文法研究会編
- 仁田義雄 (2010) 『日本文法著作選 第3巻 語彙論的統語論の観点から』ひつじ書房
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ—探究』くろしお出版
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店
- 三原健一・平岩健 (2006) 『新日本語の統語構造』松柏社
- 森山卓郎 (1996) 「情動的感動詞考」『語文』大阪大学国語国文学会 No.65 pp.51-62
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2000) 『日本語の文法3 モダリティー』岩波書店
- P.H.リンゼイ/D.A.ノーマン共著 中溝辛夫・箱田裕司・近藤倫明共訳 (1998) 『情報処理心理入門 言語と思考』サイエンス社

【付録 1】

日本語母語話者の言葉使用についての調査アンケート項目

1. おばあちゃんからのプレゼントを開けたら、だった。

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> わあー時計 | <input type="checkbox"/> うわー時計 | <input type="checkbox"/> おー時計 |
| <input type="checkbox"/> わあーの時計 | <input type="checkbox"/> うわーの時計 | <input type="checkbox"/> おーの時計 |
| <input type="checkbox"/> わあーみたいな時計 | <input type="checkbox"/> うわーみたいな時計 | <input type="checkbox"/> おーみたいな時計 |
| <input type="checkbox"/> わあーって時計 | <input type="checkbox"/> うわーって時計 | <input type="checkbox"/> おーって時計 |

2. 彼が言ったことが本当だったら、それはだね。

- | | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> えーっ話 | <input type="checkbox"/> へー話 | <input type="checkbox"/> ほおー話 |
| <input type="checkbox"/> えーっの話 | <input type="checkbox"/> へーの話 | <input type="checkbox"/> ほおーの話 |
| <input type="checkbox"/> えーっみたいな話 | <input type="checkbox"/> へーみたいな話 | <input type="checkbox"/> ほおーみたいな話 |
| <input type="checkbox"/> えーって話 | <input type="checkbox"/> へーって話 | <input type="checkbox"/> ほおーって話 |

3. 社員 1：今朝の会議で田中さんが言ったことは、だね。

社員 2：うん、そうだね。

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ふーん意見 | <input type="checkbox"/> うーん意見 | <input type="checkbox"/> うんうん意見 |
| <input type="checkbox"/> ふーんの意見 | <input type="checkbox"/> うーんの意見 | <input type="checkbox"/> うんうんの意見 |
| <input type="checkbox"/> ふーんみたいな意見 | <input type="checkbox"/> うーんみたいな意見 | <input type="checkbox"/> うんうんみたいな意見 |
| <input type="checkbox"/> ふーんって意見 | <input type="checkbox"/> うーんって意見 | <input type="checkbox"/> うんうんって意見 |

4. A：結婚相手として、彼女はどうか？

B：彼女？うーん、ちょっとね。

C：そうだね。だね。

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> うーん女の子 | <input type="checkbox"/> ふーん女の子 | <input type="checkbox"/> いやー女の子 |
| <input type="checkbox"/> うーんの女の子 | <input type="checkbox"/> ふーんの女の子 | <input type="checkbox"/> いやーの女の子 |
| <input type="checkbox"/> うーんみたいな女の子 | <input type="checkbox"/> ふーんみたいな女の子 | <input type="checkbox"/> いやーみたいな女の子 |
| <input type="checkbox"/> うーんって女の子 | <input type="checkbox"/> ふーんって女の子 | <input type="checkbox"/> いやーって女の子 |

5. A：この話、もう言った？彼女に。

B：言った言った。

A：彼女はどのような反応だった？。

B：そうだね。だった。

- | | | |
|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> うーん | <input type="checkbox"/> ふーん | <input type="checkbox"/> えーえー |
| <input type="checkbox"/> あっ | <input type="checkbox"/> そうそう | <input type="checkbox"/> えっ |
| <input type="checkbox"/> へー | <input type="checkbox"/> あーあー | <input type="checkbox"/> うんうん |
| <input type="checkbox"/> ほお | <input type="checkbox"/> おー | <input type="checkbox"/> おっ |

6. 今朝電車の中で を見たので、その姿が一日中頭から離れない。

- | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> えっ女の子 | <input type="checkbox"/> ほおー女の子 | <input type="checkbox"/> へーっ女の子 |
| <input type="checkbox"/> えっの女の子 | <input type="checkbox"/> ほおーの女の子 | <input type="checkbox"/> へーっの女の子 |
| <input type="checkbox"/> えっみたいな女の子 | <input type="checkbox"/> ほおーみたいな女の子 | <input type="checkbox"/> へーっみたいな女の子 |
| <input type="checkbox"/> えって女の子 | <input type="checkbox"/> ほおーって女の子 | <input type="checkbox"/> へーって女の子 |

7. 彼は でその話を聞いていた。

- | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ほおん顔 | <input type="checkbox"/> えーっ顔 | <input type="checkbox"/> ふーん顔 |
| <input type="checkbox"/> ほおんの顔 | <input type="checkbox"/> えーっの顔 | <input type="checkbox"/> ふーんの顔 |
| <input type="checkbox"/> ほおんみたいな顔 | <input type="checkbox"/> えーっみたいな顔 | <input type="checkbox"/> ふーんみたいな顔 |
| <input type="checkbox"/> ほおんって顔 | <input type="checkbox"/> えーっって顔 | <input type="checkbox"/> ふーんって顔 |

8. その質問を一週間ずっと考えていて、やっと が得られた。

- | | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> うんうん答え | <input type="checkbox"/> へー答え | <input type="checkbox"/> おー答え |
| <input type="checkbox"/> うんうんの答え | <input type="checkbox"/> へーの答え | <input type="checkbox"/> おーの答え |
| <input type="checkbox"/> うんうんみたいな答え | <input type="checkbox"/> へーみたいな答え | <input type="checkbox"/> おーみたいな答え |
| <input type="checkbox"/> うんうんって答え | <input type="checkbox"/> へーって答え | <input type="checkbox"/> おーって答え |

9. 「きのうね、掃除のとき、引き出しを開けたら、 が飛び出しちゃって、...。」

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> きゃあねずみ | <input type="checkbox"/> あっねずみ | <input type="checkbox"/> うわっねずみ |
| <input type="checkbox"/> きゃあのねずみ | <input type="checkbox"/> あっのねずみ | <input type="checkbox"/> うわっのねずみ |
| <input type="checkbox"/> きゃあみみたいなねずみ | <input type="checkbox"/> あっみみたいなねずみ | <input type="checkbox"/> うわっみみたいなねずみ |
| <input type="checkbox"/> きゃあってねずみ | <input type="checkbox"/> あっってねずみ | <input type="checkbox"/> うわってねずみ |

10. 兄：彼女、おまえの話、聞かせたら、 ってるよね。

弟：そうだよな。

- | | | |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> あー | <input type="checkbox"/> へー | <input type="checkbox"/> はあっ |
| <input type="checkbox"/> ほおー | <input type="checkbox"/> えーっ | <input type="checkbox"/> うーん |
| <input type="checkbox"/> おっ | <input type="checkbox"/> おー | <input type="checkbox"/> ふーん |
| <input type="checkbox"/> あっ | <input type="checkbox"/> えっ | <input type="checkbox"/> ほおん |

11. A：連休に、旅行行った？

B：うん、ベトナム行った。

A：へー、どんなところ？

B： ところだよ。

- | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> おー面白い | <input type="checkbox"/> へー面白い | <input type="checkbox"/> えっ面白い |
| <input type="checkbox"/> おーと面白い | <input type="checkbox"/> へーと面白い | <input type="checkbox"/> えっと面白い |
| <input type="checkbox"/> ほおー面白い | <input type="checkbox"/> ふーん面白い | <input type="checkbox"/> いやー面白い |
| <input type="checkbox"/> ほおーと面白い | <input type="checkbox"/> ふーんと面白い | <input type="checkbox"/> いやーと面白い |

12. A：昨日、社長の家へ訪問に行ったんだって、どうだった？

B：良かったよ。奥さんが 料理を作ってくれたよ。

A：へー、いいな。

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| () ほおーおいしい | () おーおいしい | () おっおいしい |
| () ほおーとおいしい | () おーとおいしい | () おっとおいしい |
| () へーおいしい | () あっおいしい | () わーおいしい |
| () へーとおいしい | () あっとおいしい | () わーとおいしい |

13. A：「耳なし芳一」は、 話だね。

B：ねえ。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| () わー怖い | () へー怖い | () いやー怖い |
| () わーと怖い | () へーと怖い | () いやーと怖い |
| () うわー怖い | () うーん怖い | () ほおー怖い |
| () うわーと怖い | () うーんと怖い | () ほおーと怖い |

14. 彼女は、さっき入ってきた男の人を 見てから、部屋を出て行った。

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| () えっと | () うーんと | () あれと |
| () ふーんと | () へーと | () あっと |
| () ほおーと | () おっと | () あーと |
| () ほおんと | () いやーと | () うんうんと |

15. 彼は、社長の部屋を出て、 歩いていた。

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| () えっと | () うーんと | () まあと |
| () ふーんと | () へーと | () はあっと |
| () ほおーと | () おっと | () あーと |
| () ほおんと | () いやーと | () うんうんと |

16. 彼女の家へ行く途中で、雨が 降ってきた。

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| () えっと | () うーんと | () まあと |
| () ふーんと | () へーと | () はあっと |
| () ほおーと | () おっと | () おーと |
| () おいおいと | () いやーと | () えーっと |

〔付録2〕 2回目の調査による回答数

調査項目	例文番号	感動詞	回答数			
			◎	○	△	×
1	8	わあー	11	25	11	53
		うわー	14	32	10	44
	39	おー	11	28	10	51
2	9	えーっ	32	36	10	22
		へー	32	32	8	28
		ほおー	25	29	12	24
3	10	ふーん	36	33	10	21
		うーん	40	29	8	23
		うんうん	31	22	18	29
4	11	いやー	31	27	12	30
		うーん	29	31	14	26
		ふーん	16	19	14	51
5	19	うーん	29	25	13	33
		ふーん	33	26	8	33
		えっ	21	21	16	42
		へー	24	23	9	42
6	12	えっ	37	15	12	36
		ほおー	27	32	10	31
		へー	16	30	7	37
7	13	えーっ	59	28	3	10
		ふーん	63	23	3	11

調査項目	例文番号	感動詞	回答数			
			◎	○	△	×
8	14	おー	41	30	7	22
		うんうん	35	32	11	22
		へー	30	27	15	28
9	15	きゃあ	10	22	13	55
		あっ	11	16	14	59
		うわっ	23	21	10	46
10	27	おー	52	27	8	13
11	22	いやー	52	25	5	18
		えっ	6	23	12	59
		えっ(と)	17	23	10	50
12	25	あっ	13	19	10	58
13	23	うーん	3	24	8	65
		うーん(と)	17	29	5	49
		いやー	36	34	6	24
14	31	あれ	22	25	7	46
		ふーん	26	25	8	41
		ほおー	16	26	9	49
		うーん	18	25	13	44
15	32	へー	19	30	11	50
		はあっ	17	20	8	55
		うーん	19	16	9	56

調査項目とは、〔付録1〕の項目番号である。

例文番号とは、本稿中の（ ）内の番号である。